

暮らしの広場



【7】
工藤 明敏

■乳がん編

恐らく全てのがん治療の中で、乳がんが一番目覚しい進歩を遂げていると思われる。

今年3月にスイス・ザンクトガレンで乳がんの国際会議が開催され、乳がん治療の規定が大きく変更されました。



乳がん組織から遺伝子の解析を行うと、乳がんの性質

治療の選択

がんの性質で異なる

別に分類されます。乳がんの特性によって治療法を変えようというのです。

いままでは進行度別に治療法を変えていました。しかし、進行乳がんでも再発しない症例や、早期乳がんと思われるのも再発した症例を数多く経験してきました。過去の治療法を否定するものではありませんが、「大きさが△センチ以上で○個のリンパ節転移があるから××治療を選択する」ではなく、腫瘍の性質(生物学的特性)によって治療法を選択するように診療ガイドラインに明文化されました。まさに乳がん治療の文明開化と言えるでしょう。

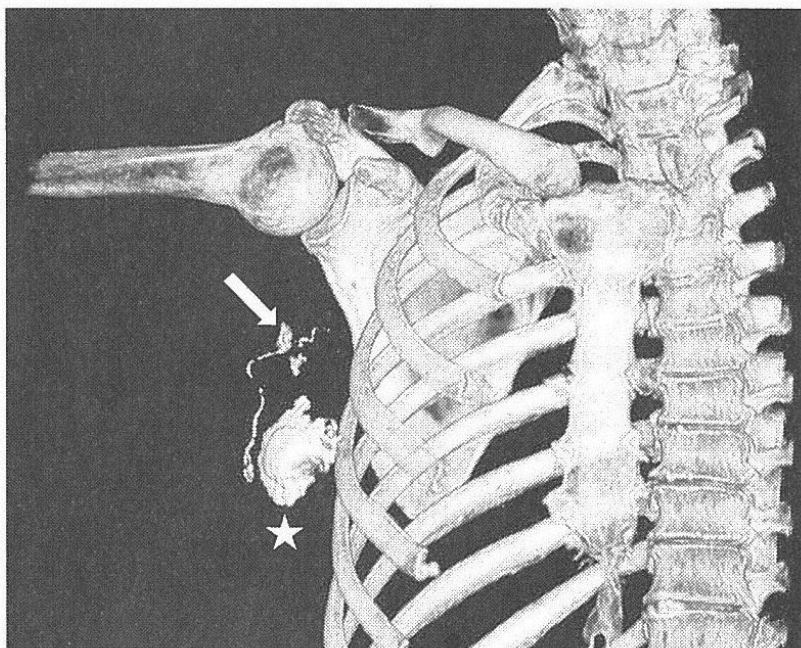
乳がんであると診断されたら、それが非浸潤がんか浸潤がんかで治療法が異なります。一般的で多数を占める浸潤がんについて説明します。

乳がん治療は、外科的切除(手術)▽薬物療法(抗がん剤・分子標的治療薬・ホルモン

剤)▽放射線照射に大別されます。乳がんの診断がついた時点で、「転移しないうちに入院して手術が必要です」と勧めることはありません。病状に合わせた適切な治療計画を立てることが重要です。進行度(腫瘍の大きさ、

腋窩リンパ節・肺・肝臓・骨転移の有無)と共に、腫瘍の性質を調べて治療計画を立てます。通常、治療開始前に針生検を行い、浸潤がんであればさらにホルモン感受性、HER2(ハーツ)、増殖指標で

あるKi67を行います。乳がんは薬がよく効くがんです。どの薬をどの時期に使うかは、治療の目的によって異なります。手術前にしこりを小さくする術前化学療法、術後の微小転移を根絶して再発を防止する術後補助化学療法。すでに乳房以外の部位に転移があったり再発を治療する場合で、治療方法(投与量・スケジュール)は違います。



3D-CTリンパ管造影写真。矢印はセンチネルリンパ節、星印は皮膚に注入した造影剤

化学療法前に確認しておくことは、①抗がん剤の名前②抗がん剤の量と投与スケジュール③主な副作用④治療中にどのような症状が出たら連絡や受診をすべきかです。HER2 細胞表面に存在する糖タンパク。何らかの理由でHER2遺伝子の増幅や遺伝子変異が起こると細胞は悪性化する。

(阿知須共立病院診療部長、外科部長)

第2、4火曜日掲載